

## 三浦市立名向小学校

研究テーマ：生き生きと学ぶ子～ズレを生む授業で目指す資質・能力の育成～

### 1 実践の目的

本校の児童の姿から、学ぶことに対して意欲的ではあるが、自ら見通しをもって取り組むことや、次につなげるためにふり返ることに課題があった。このような姿から昨年度より子どもたちが主体性をもって取り組めるような授業づくりを目指してきた。校内研究のテーマである「生き生きと学ぶ子」の育成を目指す中で、「生き生きと学ぶ子」の具体的な姿を共有し、本校で育成したい資質・能力を職員で考え、①見通しをもって主体的に学ぶ力②他者と協働する力③最後まで粘り強くやり遂げる力を重点的に育成したい資質・能力として設定し、日々の授業に取り組んできた。

それらの資質・能力を育成すべく、「ズレ」をきっかけに生まれた子どもの姿を見とることを大切にしたい授業づくりを行った。

### 2 実践の内容

#### (1) 校内研究について

研究推進委員会を中心に、校内全体で学びの場を設けた。授業研究会は、全員公開とし、多くの実践を積む中で、子どもの姿を中心に指導案検討及び研究協議を進めた。指導案検討では、名向小学校で育成したい資質・能力と、単元で育成したい資質・能力を関連付けて具体的な姿を明示し、授業づくりをした。

#### (2) 研究授業、研究協議について

研究授業を1人1回全員が行う体制をと

っている。

研究授業当日の放課後に研究協議を開催し、参観者が見とった授業での子どもの学びの姿や授業者の手立てを中心に話し合った。協議の最後には、「ネクストプラン」というコーナーを作り、授業者が研究協議の内容を踏まえて次の授業の手立てを考えた。

#### (3) 公開研修会や講師を招いての研修

公開研修会では、他校や他地区の先生方にも参加していただき、多くの意見から授業を改めて見直していく機会とした。また、今年度は横浜創英大学の美智子教授に資質・能力を育成するための授業づくりについてお話をいただき、職員で共有し、授業力向上を目指した。

### 3 実践の成果

#### (1) 校内研究について

昨年度から継続研究をしていた「ズレ」を生む授業をしてきた。「ズレ」を資質・能力につなげるために、「ズレ」をどのように活用していくかを発達段階に応じて示した。

低学年…ズレに気づき、意欲をもって活動する。

中学年…ズレを認知し、考えを広げ深める。

高学年…ズレを理解し、新たな考えを創造する。

昨年度は「ズレ」を資質・能力につなげることが難しかったという課題があったが、今年度は、「ズレ」を資質・能力につなげる意識で授業づくりを行うことができた。

また、名向小学校で育成したい資質・能力を発達段階に分けて、具体的な姿を設定した。

その具体的な姿を単元の資質・能力と関連付けたことで、より具体的な学びの姿をイメージできるようになった。

「ズレ」を生むことで子どもたちが思考する必然性が生まれた。そこから発生した子どもの学びの姿を見とることが資質・能力の育成に大きくつながっていくと感じた。

## (2) 研究協議について

授業後に①子どもたちの学びの姿②教師の手立ての2つの視点で研究授業の協議を行った。

子どもたちを主語とした意見を交流することで、授業者が見えていなかった子どもの姿を共有することができた。また、目標に到達していない児童や困っている児童の原因を話し合うことができた。

研究協議の最後に授業者が「ネクストプラン」を発表したことで、協議の内容を踏まえて、次の授業での手立てを考えることができ、資質・能力を育成する意識で授業を行うことができた。さらに、参観者も「ネクストプラン」を考えたことで、自分の授業づくりのヒントにもなった。

## (3) 公開研修会や講師を招いての研修

計画的に研修を行ったことで、普段の授業づくりを振り返るきっかけとなった。また、



公開研修会の協議会の様子

公開研修会では、市内小中学校だけでなく、市外の先生にも参観していただき、貴重

な意見を伺うことができた。多くの目で子どもの様子を見とり、より良い授業づくりのための意見を交流することができ、参考になる意見もいただくことができた。

## 4 今後の展開

今年度は「ズレ」から生まれた子どもの姿を資質・能力につなげるために、子どもの姿を見とって、単元や授業づくりをしていく大切さを学んだ。それと同時に名向小学校で育成したい資質・能力の見とりの難しさも明らかになった。資質・能力が育成されているかどうか、しっかり見とり、評価していく必要がある。

よって次年度は、「ズレ」から生まれた子どもの姿を見とることも大切にしつつ、さらに資質・能力が育成されているかに焦点を当てて、子どもを見とって検証していく。

研修に関しても、計画的・継続的に行い、職員の研鑽の場を設け、不断の授業改善を行っていきたい。